

日本工業大学採択テーマ

学長直属の教育研究推進室による教職協働  
の推進と教育研究資金配分のプロポーザル化

日本工業大学

## ■■■ 日本工業大学の歴史 ■■■



### 昭和42年 日本工業大学開学

- ・大学進学のお機曾に恵まれない工業高校生のための大学
- ・現在は、工業高校出身と普通高校出身が半々
- ・「実工学(本学の造語)」の下、現場のプロジェクトリーダーを育成

### == 日本工業大学の実工学教育 ==

#### ① 工業高校 (55%) と普通高校 (45%) の学習

履歴に合わせたコース別カリキュラム

#### ② 体験学習の楽しさを起点に工学の知と技を学ぶデュアルシステム

#### ③ 設計から製作まで、ものづくりを一貫して学ぶPBL 工房教育

#### ④ 工学への興味を起点に数学・物理・英語を学ぶ融合科目

#### ⑤ 課題発見能力と問題解決能力を育む必修 卒業研究



工学の知と技を有機的に結びつける



## 教育研究推進室の活動

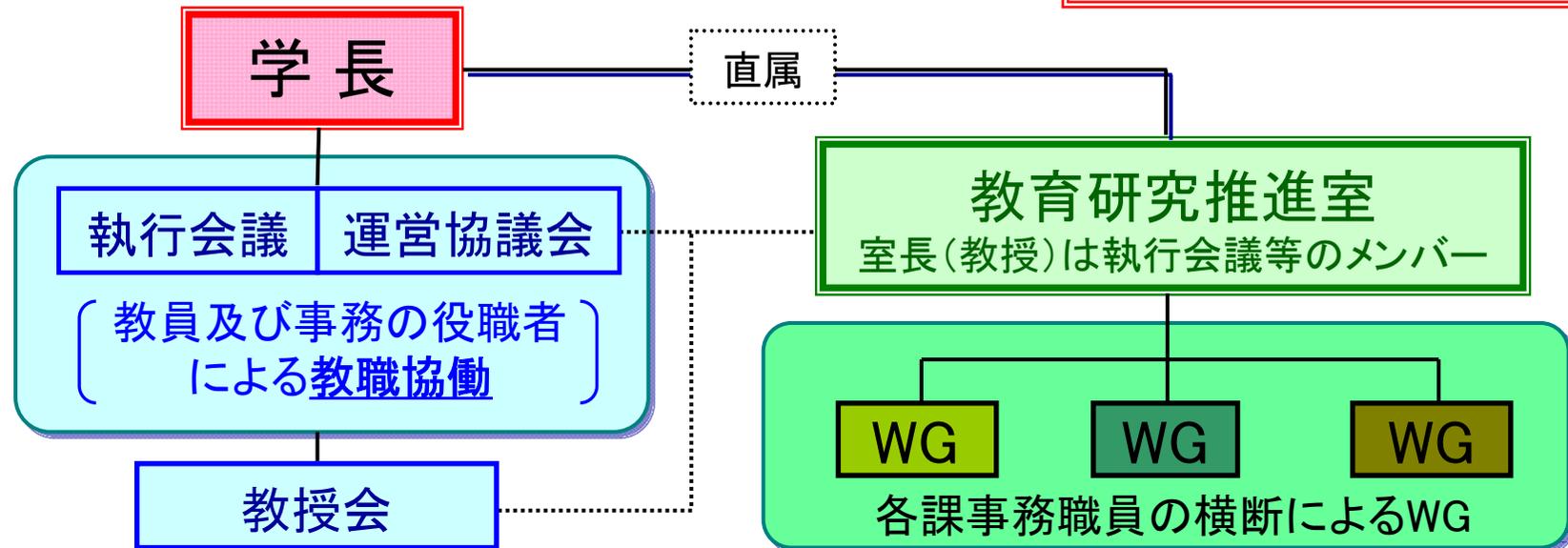
### 【教育改革・研究推進への取組】

- ① 特色GPの獲得  
⇒ 工房教育によるPBLの深化
- ② 科学研究費助成事業の獲得支援 ⇒ 研究水準の向上
- ③ 授業公開・評価 ⇒ 教育の質保証、全教員が公開・評価
- ④ 教育改革シンポジウム ⇒ 教育基本方針の深化と共有化
- ⑤ 学内教育研究予算のプロポーザル化  
⇒ 積極的な教育研究活動を支援
- ⑥ 学内特別研究費、学内教育設備費、大型設備費  
⇒ 教育研究環境の重点整備
- ⑦ 教員業績評価の実質化

◆ 教職協働組織

学長直属の教育改革、研究推進組織

教員と職員が教育研究の  
推進・活性化に取り組む  
教職協働組織



教育研究予算、公的資金獲得支援に係る各施策

教員と職員の信頼関係構築

『教職協働』により信頼関係が醸成され、大学全体の組織運営の強化につながる。

## 教育研究推進室の経緯

- 平成17年 学長発案の教育改革を実現する**教職協働組織**として設置  
工房教育『**特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)**』採択
- 平成18年 **科研費採択向上**のため、事務職員WG結成  
研究計画調書作成支援で、**採択件数が徐々に増加**
- 同 年 **学内教育研究予算**を均等配分から**プロポーザル化**
- 同 年 「**授業公開・相互評価**」開始
- 平成19年 **不正防止の相談窓口**設置
- 平成20年 **教員業績報告書**の提出
- 同 年 **教育改革シンポジウム** — 教職協働意識の醸成 —
- 平成21年 **特色GPの公開シンポジウム**開催
- 同 年 「**技術を活かし就職満足度を向上させる工学系就職総合支援システム**」『**大学教育・学生支援推進事業【テーマB】**』採択
- 同 年 **大型設備等の整備・使用状況視察制度**導入

## ◆ 工房教育（平成17年度特色GP採択）

- ・ フォーミュラや2×4木造建築などPBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）形式による15工房が活動。
- ・ カレッジマイスター取得者は、産業界からも高い評価
- ・ 工房教育の予算・運営・広報を支援



## ◆ 科研費獲得支援プロジェクト

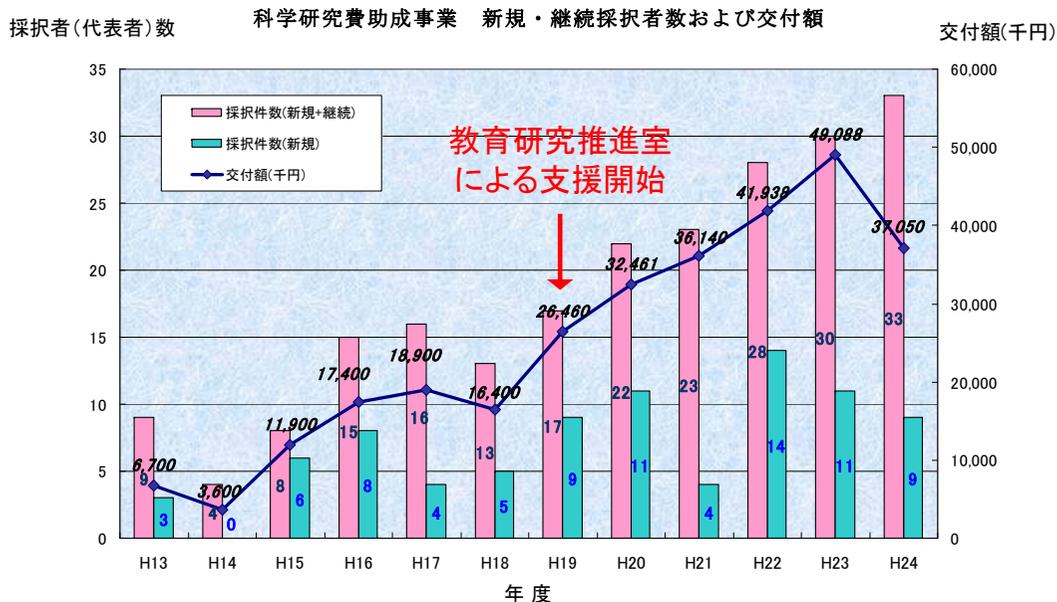
事務職員WGが教員の研究計画調書を精査

### 【チェック事項】

- ①要求事項に対する記述の正確性
- ②取組及び計画の具体性
- ③実施組織の妥当性
- ④経費算定の合理性と妥当性

⇒ 計画調書の完成度が向上し、採択件数が増加

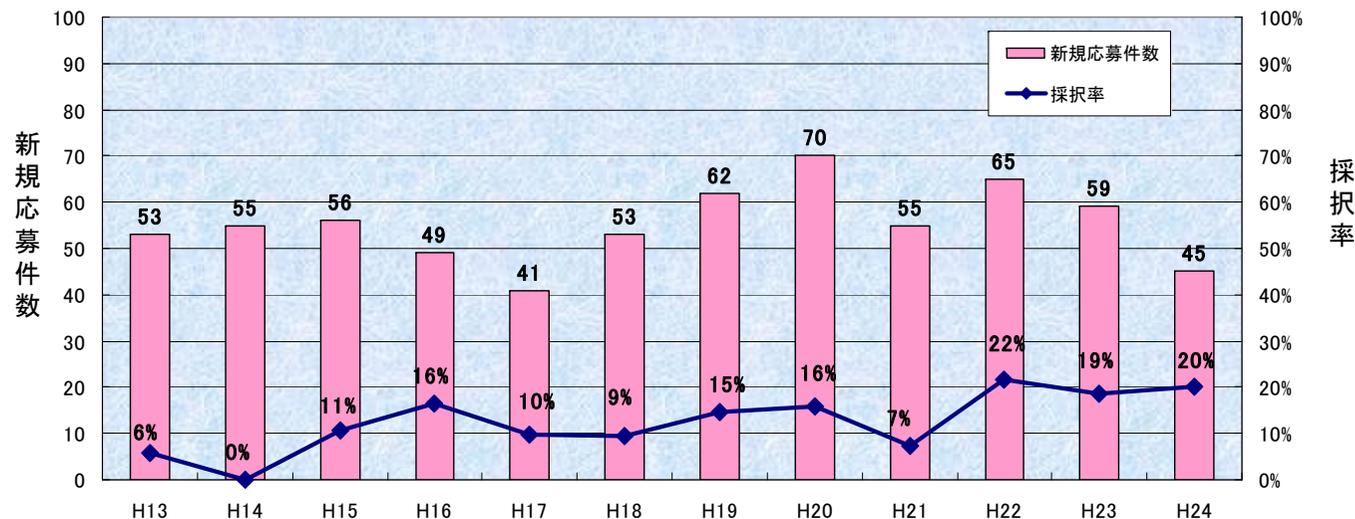
⇒ 継続的实施の結果、事務職員が研究概要を把握し、  
予算運用等で適切なアドバイスが可能になる。



平成19年度科研費より事務職員WGによる研究計画調書のチェックを開始して以降、徐々に増加傾向にある。

※ 交付額は他学等の研究分担者への配分額も含む。  
 ※ 採択者数は、本学教員が研究代表者である件数

科学研究費助成事業 新規応募件数と新規採択率



## ◆ 授業公開・評価 — 教育の質保証 —

- ・ 全教員が春・秋3週間、自らの授業を公開し、評価を受ける。
- ・ 全教員に数回の授業参観と報告書を義務化。
- ・ 優れた授業の公開は珍しくないが、全教員の授業公開は希少。

➡ 今後は、事務職員も授業参観に参加

### 【事務職員の参加により見込まれる成果】

事務職員が教育現場を理解することで、適切な学生対応や保護者へ本学教育の説明責任を果たすことが可能となる。

教員と職員が相互の立場や現状を把握することが、更なる『教職協働』への推進につながり、相乗効果をもたらす。

## ◆ 教育改革シンポジウム

### 【目的】

『教育方針等の深化と共有化』 『教職協働のFD・SD活動』

教員と事務職員が課題を共有し、それぞれの立場から意見を交換することで相互理解を図る。

== 開催した主なシンポジウム(年3回程度) ==

第1回	平成15年度新入生に向けた授業改善の課題
第5回	魅力ある大学づくりのために —大学ととりまく状況と大学改革の実際—
第22回	動き出した新設「環境系2学科」における環境教育
第23回	日本工業大学 特色GPシンポジウム 工房教育プログラムの成果報告と新たな展開
第24回	融合科目の現状と新たな展開
第31回	より効果的な学生支援を目指して
第32回	事務局の各部署が教員の皆さんにぜひ理解してほしいこと

## 教育研究予算のプロポーザル化

教育研究予算は、従来の配分型から積極性重視の獲得型へ

- ・学内特別研究費 …… 科研費形式の申請書により自らの研究・教育活動をアピール
- ・学内教育設備費 …… 各学科の実験・実習設備の充実と重点配分
- ・大型設備費 …………… 最新・最先端設備の導入・整備



### 【プロポーザル予算決定のプロセス】

- ① 各学科・教員が計画書を作成
- ② 事務職員WGが計画書の内容・完成度をチェック
- ③ 公開ヒアリングによる審査
- ④ 執行会議において審議・選定

### 【予算のプロポーザル化による成果】

- ① 競争原理の導入による教育研究内容の質的向上。
- ② 限られた資金を有効活用。
- ③ 審査時のコメント、指摘事項を申請者へフィードバックし、次年度の飛躍へ結びつける。
- ④ 事務職員が計画書を読むことで、教育研究内容を理解し支援に繋がる。

### ■■■ プロポーザル予算に関する今後の課題 ■■■

ISO14001認証で培ったPDCA機能をプロポーザル予算の一部に導入しているが、今後は全ての予算に敷衍し、選定課題や設備の実績・成果を評価する機会を充実させる。

## ◆ 教員業績評価の実施

- ① 教員各自が研究・教育・大学運営の3点について、『教員業績報告書』の各項目に沿って前年度の業績を報告する。
- ② 『教員業績報告書』を基に、教育研究推進室が『教員業績評価表』を作成する。

## ◆ 業績評価の意義

- ・ 点数化による業績評価は、抵抗感があって当然。
- ・ 数字に表れない部分もきちんと評価することを公表。
- ・ 透明化が目標。

配点の適切性については、データ集積から検討していく。

### 【教員業績評価の実施理由】

教員の業績は、必ずしも統一的な基準で評価できるものではないという観点から、昇格等の具体的基準を明文化、公開していない。その為、妥当な昇格時期を逃すことも考えられる。



執行会議は、全教員の業績をチェックし、昇格等の適切な時期を逃さないように努力している。

教員業績評価表

氏名:	所属: 機械工学科 (所属分類: 機械工学科)	職位:	年齢:	評価者氏名	総合評価	A	B	C	D	E
-----	----------------------------	-----	-----	-------	------	---	---	---	---	---

1. 研究に関する業績

1. 1 研究成果発表の状況

種別	件数	筆頭件数
1 学(協)会誌への投稿論文	1	0
2 国際会議のプロシーディング	0	0
3 学(協)会における口頭発表	0	0
21 単独著書単行本	0	
22 共著単行本	1	0
23 分担執筆単行本	0	0
26 編著	0	
33 建築設計	0	
その他	0	
計	2	0

研究評価	A	B	C	D	E
------	---	---	---	---	---

2. 教育に関する業績

2. 1 授業担当

種別	コマ数	科目名
講義科目	1.00	
演習科目	23.00	
実験科目	4.00	
大学院講義科目	1.00	
コマ数計	29.00	

授業担当評価	A	B	C	D	E
--------	---	---	---	---	---

2. 2 工房教育・授業以外の教育活動

内容	評価	重み	結果
1 工房教育を主催した	1.0	3	3.0
2 工房教育に参加した	1.0	3	3.0
3 センター等で学生指導を担当した	1.0	2	2.0
4 自主ゼミナール等を主催した	0.0	2	0.0
5 指導した学生が受賞した	0.0	3	0.0
6 その他学生に対して特別な指導をした	0.0	2	0.0
7 留学生に対して特別な指導をした	1.0	2	2.0
8 学内学生団体の顧問(部長)をした	0.0	1	0.0
9 学生団体やゼミで大学祭に参加するための指導をした	0.0	2	0.0
10 学生の就職相談に応じた	1.0	2	2.0
11 卒業研究(計画)を担当した(共通教育系教員のみ記入)	0.0	0	0.0
12 その他	0.0	2	0.0
小計A			12.0

2. 3 授業改善活動

内容	評価	重み	結果
1 教科書の執筆を担当した	1.0	3	3.0
2 教科書以外の教材を開発した	1.0	2	2.0
3 学生による授業評価の結果を授業改善に具体的に利用した	1.0	1	1.0
4 授業公開・相互評価に参加し、その結果を授業改善に利用した	0.0	2	0.0
5 「教育改革シンポジウム」で発表した	0.0	3	0.0
6 「教育改革シンポジウム」に参加した	1.0	3	3.0
7 その他学内FD関連活動を主催した	0.0	3	0.0
8 その他学内FD関連活動に参加した	0.0	2	0.0
9 その他	0.0	2	0.0
10 自由記述欄	0.0	2	0.0
小計B			9.0

重み総計	47	
結果総計	21.0	A+B
評点	0.45	

教育・運営評価	A	B	C	D	E
---------	---	---	---	---	---

3 運営に関する業績

3. 1 教育運営に関する活動

内容	評価	重み	結果
1 学科主任を担当した	0.0	3	0.0
2 専攻幹事を担当した	1.0	3	3.0
3 センター長・室長等を担当した	1.0	3	3.0
4 部長補佐を担当した	0.0	2	0.0
5 学内委員を担当した	1.5	1	1.5
6 課程幹事を担当した(共通教育系教員のみ記述)	0.0	0	0.0
7 学科内委員を担当した	1.0	2	2.0
8 ISO関連の委員を担当した	0.0	2	0.0
9 その他教育運営に関する活動を担当した	1.0	2	2.0
小計C			11.5

3. 2 入試広報に関する活動

内容	評価	重み	結果
1 AOコーディネーターを担当した	0.0	3	0.0
2 オープンキャンパスにおける行事を担当した	1.0	2	2.0
3 学生募集のために高校訪問した	0.0	3	0.0
4 出張授業を行った	0.5	3	1.5
5 その他入試広報に関する活動、役職を担当した	1.0	2	2.0
小計D			5.5

3. 3 研究資金

内容	評価	重み	結果
1 科学研究費を獲得した	0.0	3	0.0
2 科学研究費に応募した	0.0	2	0.0
3 学内特別研究費を獲得した	0.0	3	0.0
4 研究奨励寄付金を受けた	0.0	3	0.0
5 受託研究を受託した	0.0	3	0.0
6 その他	0.0	2	0.0
小計E			0.0

3. 4 その他の活動

内容	評価	重み	結果
1 産学連携活動を担当した	0	2	0.0
2 公的機関の審査会等の委員を務めた	0	2	0.0
3 学外の団体が行う社会貢献活動に参加した	1	2	2.0
4 自由記入欄	0	2	0.0
小計F			2.0

重み総計	55	
結果総計	19.0	C+D+E+F
評点	0.35	

運営評価

## ◇◇未来経営戦略推進経費による今後の展開◇◇



### ◆ 教員業績評価の積極的活用

教育研究推進室に毎年蓄積されてゆく「教員業績報告書」とそれに基づく「教育業績評価表」を活用し、全学的な合意を得ながら、人事考課へ反映させる。

### ◆ 事務職員の職能開発

プロポーザル予算の審査等のPBLを通じ、事務職員の能力を向上させ、全学の活性化、公的資金の不正使用防止を図る。

